

## 会 議 録

会議の名称	第8回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開催日	令和8年5月25日(月)
開催時間	午後6時30分 から 午後8時 まで
開催場所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	明野 真久、神田 小百合、中口 智弘、細野 勇人、中村 則裕 小林 大輔、辻 文明、増田 陽一、矢部 れい美、藤井 亮輔 加藤 政典、濱本 一、松崎 慶喜 出席者：13名
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	水野 香奈、安原 輝彦 欠席者：2名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一 魅力ある学校づくり推進室主任 内田 直子
事務局職員の職・氏名	教育長 横松 伸二 教育部長 長谷川 亘 参事兼教育指導課長 増村 歩 教育総務課長 高澤 憲司 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一 魅力ある学校づくり推進室主任 内田 直子
その他会議出席者の職・氏名	教育総務課主任 松本 崇希 ファシリティマネジメント推進課長 佐藤 恒喜 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 ファシリティマネジメント推進課主査 空谷 大地 株式会社ファインコラボレート研究所 井口 智庸
傍聴者数	12人
会議次第	別添のとおり
配布資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正規模・適正配置のまとめに関することについて</li> <li>・ 20年後の学校の適正規模・適正配置の方向性(小学校3校、中学校3校)に向けての配慮事項</li> <li>・ 魅力ある学校づくりシンポジウム実施報告</li> </ul>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開 会</p> <p>委嘱書の交付</p> <p>令和8年3月31日付 大山委員の退任に伴う、</p> <p>令和8年4月1日付 増田委員の選任</p>
増田委員	あいさつ
教育長	2 あいさつ
事務局	<p>3 議 題</p> <p>それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
濱本会長	会議の開始にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	<p>それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。</p> <p>また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコラボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。</p> <p>なお、傍聴の方の入室を許可しておりますので、ご了承ください。</p>
濱本会長	<p>まず、本日の議題に入る前に、去る4月25日に開催された『魅力ある学校づくりシンポジウム』について、当日ご欠席の委員もいらっしゃいますので、参考として、事務局からその概要を簡潔に報告してください。</p>

事務局	「魅力ある学校づくりシンポジウム」実施報告
濱本会長	事務局から報告が終わりました。 ただ今の報告について、ご意見やご質問等がございますか。 特にないようですので、続けて進めさせていただきます。
濱本会長	次の議題に入る前に、前回の審議会の最後に確認させていただいた内容について、改めて整理しておきたいと思います。 前回は、パターン2の「小学校3校、中学校3校」をベースとした再編案についてご議論いただきました。 本審議会は、適正規模・適正配置に関する諮問を受けておりますので、基本的には20年後の姿として、小学校3校、中学校3校という方向性について、皆さんからご意見をいただいたところです。 今後につきましては、その方向性を前提としながら、実現に向けてどのような点に配慮していくべきかという観点で、皆さんからご意見をいただきたいと考えております。そのような進め方でよろしいでしょうか。
委員一同	(異議なし)
濱本会長	ありがとうございます。それでは、そのような形で進めさせていただきます。 それでは、議題に入りたいと思います。 「適正規模・適正配置のまとめに関すること」を議題といたします。 事務局から説明をお願いいたします。
事務局	「適正規模・適正配置のまとめに関すること」について説明
濱本会長	ありがとうございました。 これまでの審議会の中で、委員の皆さんからは、小中一貫教育は大変効果的であり、非常に意義のある取組であるというご意見をいただいております。 そうした中で、事務局から今回の資料をご用意いただきましたので、さらに

<p>A委員</p>	<p>ご意見をいただきたいという趣旨かと思えます。</p> <p>委員の皆さんには、忌憚のないご意見をいただき、今後の参考にしていきたいと思えます。何かご意見、ご質問はございますか。</p> <p>少し話がずれるかもしれませんが、先ほど中1ギャップについてお話があり、それが小中一貫教育を推進するメリットの一つであるという説明をいただきました</p> <p>先日テレビを見ていたところ、幼稚園と小学校の間にもギャップが生じているという話がありました。</p> <p>実際にそうした状況がどの程度あるのかは、私自身は体感として分からない部分もありますが、そのような課題もあるのではないかと考えています。</p> <p>そう考えると、地域としては、幼稚園・保育園・小学校・中学校というつながりで見えていくことも大切なのではないかと考えています。</p> <p>私が所属している地区の学校運営協議会では、委員として保育園の先生や幼稚園の園長先生にも参加いただいております。</p> <p>そこでお聞きしたいのですが、現在、小学校では幼稚園や保育園との間で、いわゆるギャップを埋めるための情報交換や連携などを行っているのでしょうか。今後、地域全体で子どもたちを育てていくことを考えると、そうした取組も大切な視点の一つではないかと考えています。</p> <p>もちろん、幼稚園や保育園は進学先がさまざまですので難しい面もあると思いますが、そうしたコミュニケーションは取っていった方がよいのではないかと感じています。</p> <p>現在の状況や今後の考え方についてお聞かせいただければと思います。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>幼稚園や保育所から小学校へ上がる際には、いわゆる「小1プロブレム」と言われるような生活面での不適応が課題としてありますし、そうしたギャップは実際にあると思えます。</p> <p>それでは、学校現場の状況についていかがでしょうか。</p>

F 委員	<p>私自身の実感としても、小学校 1 年生がなかなか落ち着かないという状況は年々感じています。</p> <p>また、小学校低学年におけるいわゆるいじめ事案も増えていると感じています。子ども同士がうまくコミュニケーションを取れないことも一因としてあると感じており、非常に難しい問題だと思っています。</p> <p>小学校では、1 月から 2 月頃に、翌年度入学してくる園児について、幼稚園や保育園の先生方と直接顔を合わせて情報交換を行っています。どのようなお子さんが入学してくるのか、どのような配慮が必要なのかといった内容について、幼保小の連絡協議会の中で共有しています。</p> <p>ただ、実際には園児がかなり分散しています。一つの幼稚園や保育園から 20 人、30 人とまとまって入学してくることはほとんどなく、1 人や 2 人というケースも多くあります。そのため、そうした園についても電話等で必ず連絡を取り、入学後に小 1 プロブレムのような状況が起きないように対応しています。</p> <p>また、教育委員会でも幼保小の連絡協議会を実施していただいております、小学校の教員と幼稚園・保育園の先生方が一堂に会して情報共有を行っています。</p> <p>やはり何より大切なのは情報共有だと思っています。</p> <p>行政の福祉部門からも子どもたちの情報をいただくこともありますので、まずは関係機関がしっかり情報を共有することが大切だと考えています。</p>
E 委員	<p>本校でも幼稚園や保育園の職員の方と、本校の職員が連携する機会を設けています。</p> <p>昨年度は、本校の職員が実際に幼稚園や保育園へ出向き、子どもたちの様子を見たり、職員同士のつながりを深めたりしながら、より良い指導や支援につながられるよう取り組んでまいりました。</p> <p>また、今は幼稚園・保育園との連携についてのお話でしたが、小学校と中学校の間でも同じような取組を行っています。</p> <p>中学校との連携では、中学校の先生が小学校に来て授業を行ってくださることがありますし、逆に中学校へ進学した子どもたちの授業の様子を、小学校の教員が見に行くこともあります。</p>

<p>濱本会長</p>	<p>このように、職員同士が交流しながら情報を共有し、子どもたちがより良く成長できるよう取り組んでいるところです。</p> <p>実際に白岡市でも、小学校、中学校、幼稚園、保育所などが連携しながら取組を進めているようです。</p> <p>国においても、幼保小連携のプログラムが示されており、幼稚園・保育園と小学校との接続を円滑にするための取組が進められています。</p> <p>小学校も、そうした取組を実践していただいているところだと思います。</p> <p>資料の9ページをご覧くださいませ。9ページの下段にサブファミリーの例が掲載されています。その中に「義務教育学校1校」という形がありますが、その下には「中学校1校・小学校2校・こども園1園」という構成も示されています。</p> <p>このように、こども園を含めながら連携を進めている事例もあります。地域によっては、幼保小中が連携した形で取り組んでいるところもあるということです。</p> <p>ただ、その場合には、公立の幼稚園やこども園なのか、私立の幼稚園なのかといった課題もあり、そのあたりはなかなか難しい部分もあると思います。</p> <p>そうした課題はありますが、さまざまな形で連携を進めている事例があるということです。</p>
<p>C委員</p>	<p>今日の議論は、この「9年間の学び」を導入するかどうかについて意見交換をする時間なのでしょうか。</p> <p>それとも、最初にお話があったように、パターン2に向かう際の懸念事項や配慮事項を出し合う場なのでしょうか。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>主な議論としては、懸念事項や配慮事項についてご意見をいただくこととなります。ただ、委員の皆さんが小中一貫教育に大変関心を持たれておりますので、今後の参考とするためにも、小中一貫教育についてのご意見も伺いたいと考えています。そのため、忌憚のないご意見をいただければと思います。</p>

<p>C委員</p>	<p>そうしますと、2点ほどお聞きしたいことがあります。</p> <p>まず1点目ですが、資料2ページの「導入の理由」についてです。</p> <p>先ほどご説明いただいた中で、子どもの人数が減少していることや、特別支援学級の児童生徒数が増加していることが、小中一貫教育を導入する理由として示されていました。</p> <p>ただ、私自身は、「子どもの人数が減るから9年間の学びにする」ということや、「特別支援学級の児童・生徒数が増えているから9年間の学びにする」ということが、少し結び付いていないように感じています。そのあたりについて、もう少し詳しく教えていただきたいというのが1点目です。</p> <p>もう1点ですが、不登校児童・生徒への対応についてです。</p> <p>不登校の減少を目指して小中一貫教育を導入するという考え方は理解できます。ただ、実際には小中一貫教育を導入している自治体でも、不登校が大きく減っていない事例もあるのではないかと思います。小中一貫教育にすることで、不登校が減少するといえるような実績や根拠があるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、1点目の児童・生徒数の減少についてです。</p> <p>こちらにつきましては、今後、児童生徒数の減少に伴い、小規模化が進む学校が出てくることが想定されます。学校の小規模化が進むと、さまざまな考え方を持った子ども同士が関わる機会や、多様な人間関係の中で学ぶ機会を確保することが難しくなることが考えられます。</p> <p>そこで、適正な学校規模を確保しながら、さらに9年間を一体的な学びとして捉えることで、そうした課題の解消につなげていきたいという考えがあります。そのため、児童生徒数の減少という視点を導入の理由の一つとして挙げております。</p> <p>多様な考え方を持った子どもたちがいる環境の中で学ぶことは、子どもたち一人一人にとって様々な気付きや学びにつながる機会を増やすことになると考えています。そうした環境を整えていきたいということが、まず一つあります。それは適正規模の確保という考え方にもつながるものだと考えております。</p> <p>また、小中一貫教育では、小学生と中学生がこれまで以上に関わることで</p>

	<p>きる環境をつくることも大きな目的の一つです。資料でもご説明しましたが、小学生同士の関わりや中学生同士の関わりだけでなく、小学生と中学生が日常的に関わる機会を増やしていくことを考えています。</p> <p>小学生にとっては、身近に中学生がいることで、その姿を目標や憧れとして捉えながら学校生活を送ることができ、自分自身の成長につなげていくことが期待できます。</p> <p>また、中学生にとっても、下級生と関わることで責任感や思いやりの気持ちが育まれることが期待されます。</p> <p>このような環境を整えることで、子どもたちの成長につながる機会が増えていくのではないかと考えています。</p>
C委員	<p>児童生徒数が減少する中でも、より多くの子どもたちと関わるができる環境をつくり、その中で9年間を通してコミュニケーションや人間関係を育んでいくことに意義があるということが、主な理由ということだとわかりました。</p> <p>それでは、2点目の不登校についてはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>不登校につきましても、中1ギャップという部分が大きく関係していると考えています。</p> <p>小学校6年生が中学校1年生に進学する際、学習面や生活面で環境が大きく変わります。また、部活動がはじまるなど、新しい環境への適応が求められることとなります。そうした変化にうまく対応できず、不安や戸惑いから不登校につながってしまうケースがあると考えられており、一般的にこれを中1ギャップと呼んでいます。</p> <p>小中一貫教育を進めることで、例えば小学校6年生の段階から、中学校ではどのような授業が行われるのか、どのような学校生活を送るのか、どのようなことを学ぶのかといったことを知る機会を増やすことができます。</p> <p>そうした経験を積むことで、中学校進学に対する不安を少しでも和らげることができないのではないかと考えています。</p> <p>中学校に上がる前から見通しを持つことができれば、環境の変化による負担</p>

<p>C委員</p>	<p>を軽減することにもつながります。そのため、中学校進学時の不安の解消を図ることを大きな目的の一つとして、小中一貫教育を導入し、進めていきたいと考えています。</p> <p>お話の内容としては理解できますし、私自身も想像としてはそうなのだろうと思います。</p> <p>ただ、私がお聞きしたかったのは、実際に小中一貫教育を導入している自治体や学校において、不登校が減少したという事実やデータがあるのかどうかという点です。</p> <p>小中一貫教育そのものを否定したいということでは全くありません。むしろ、効果があるのであれば積極的に導入した方がよいと思っています。</p> <p>ただ、今ご説明いただいた内容ですと、考え方や期待される効果としては理解できるのですが、実際に導入した結果としてどうだったのかという部分が少し分かりにくいと感じています。そのあたりについて、もし実績や事例があれば教えていただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>その点についてですが、資料の9ページの北本市の事例をご覧くださいと思います。</p> <p>北本市では、9年間の学びを「4・3・2」のまとまりで捉えながら小中一貫教育の研究を進めています。</p> <p>その研究の成果として、資料の「4・3・2に関する研究」の項目をご覧くださいと、項目の上から3つ目に記載がありますが、この取組を実施した結果として、中学校進学に対する不安の軽減や、中学1年生の学校生活に対する満足度の向上など、中1ギャップの解消や軽減に関する効果がみられたという報告がされています。</p> <p>ただ一方で、その下には課題も示されております。</p> <p>ご指摘のとおり、小中一貫教育を導入したから全てがうまくいくというものではないと考えています。メリットもあればデメリットもありますし、導入後に生じる課題についても十分に検証していく必要があります。</p> <p>そうした点も含めて、今後さらに調査や研究を行いながら、適切に対応して</p>

C委員	<p>いかなければならないと考えております。</p> <p>小中一貫教育については、私自身も6年間、中高が一緒の環境にいた経験があり、その中で感じたデメリットも多くありました。</p> <p>この資料だけを見ると、メリットが中心に整理されている印象を受けますので、導入にあたっては、良い面だけでなく課題やデメリットも含めて、慎重に議論していく必要があると思います。</p>
濱本会長	<p>今後の検討に向けて大変重要なご示唆だったと思います。その点も踏まえて、事務局には引き続き検討を進めていただきたいと思います。</p> <p>また、できるだけ根拠やデータに基づいた形で整理していただければと思います。</p> <p>小中一貫教育については、子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教育ができるということが大きな意義の一つだと考えています。</p> <p>一方で、今ご指摘いただいたように、当然ながらデメリットや課題もあります。</p> <p>そうした点もしっかり踏まえながら、今後さらに研究や検討を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
濱本会長	<p>それでは、次の議題に入りたいと思います。</p> <p>これまでの議論の中で、20年後の学校の適正規模・適正配置の方向性として、「小学校3校、中学校3校」という方向性に整理されてきました。</p> <p>その実現に向けて、委員の皆さんからはさまざまな配慮事項や留意点についてご意見をいただいております。</p> <p>本日は、その内容について事務局で資料を整理しておりますので、まず事務局から補足説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>「20年後の学校の適正規模・適正配置の方向性（小学校3校、中学校3校）に向けての配慮事項」について説明</p>

<p>濱本会長</p>	<p>まず、資料の「方向性を選択した主な理由」として、3点が示されています。</p> <p>これは、委員の皆さんからいただいたご意見を踏まえ、このような方向性が整理された理由として、3点にまとめていただいたものだと思います。</p> <p>次に、審議会の中で委員の皆さんから出されたご意見や配慮事項についてです。</p> <p>それらを事務局で整理していただいた内容が、下段に記載されております。</p> <p>この内容について、皆さんからご意見をいただきたいと思います。</p> <p>少しお時間を取りますので、資料をご確認いただいた上で、ご意見をお願いいたします。</p>
<p>A委員</p>	<p>白岡市の特色を生かした教育として、「図書を生かした教育」ということが挙げられています。</p> <p>例えば学校図書館の開放など、ハード面での取組については、「なるほど、そうだな」と思います。</p> <p>ただ、私が思うのは、実際に図書とは何なのだろうということです。</p> <p>例えば、これから先、デジタル教科書が本格的に導入されていくと言われております。そうした中で、本を手にとって読むことだけが図書なのか、デジタルのものも図書なのか。</p> <p>また、本といっても漫画はどうなのかということもあります。私自身、日本の歴史漫画を読んで大学受験の勉強をした記憶があります。</p> <p>そう考えると、どういう場面で、どういう図書を、どのように活用していくのかということ、もう少し深く考えてもよいのではないかと思います。</p> <p>これは生涯学習にも関わることで、子どもだけでなく成人も含めて考えていく必要があると思います。</p> <p>せっかく白岡市の特色として掲げるのであれば、学校図書館の活用や施設面だけではなく、図書そのものについて、もう少し深く追求してもよいのではないのでしょうか。ほかの自治体でも図書を活用した取組は行われていると思いますので、白岡市としてどのような特色を持たせるのか整理していくことも必要ではないかと思います。市の方針や考え方としてまとめるなど、もう一步踏み込んだ検討があってもよいのではないのでしょうか。</p>

	<p>私自身は図書の専門家ではありませんが、白岡市には図書に関して研究されている方や詳しい方も多くいらっしゃると思います。</p> <p>せっかく特色として掲げるのであれば、「貸出冊数が多いから図書のまち」というだけではなく、図書を活用した学びとは何かというところまで掘り下げて考えていくとよいのではないかと思います。</p>
濱本会長	事務局、いかがでしょうか。
事務局	<p>教育振興基本計画を現在策定中でございまして、その中には子ども読書計画というのがございます。そちらの内容の中で今後検討していければと考えています。</p>
G委員	<p>図書だけに特化して考えるのは、なかなか難しい部分もあると思います。</p> <p>ただ、適正規模・適正配置の議論とも関係するのですが、特色として打ち出すこと自体はよいことだと思います。</p> <p>一方で、西地区や南地区など地域によって立地条件や周辺環境が大きく異なりますので、その点は十分考慮する必要があると思います。</p> <p>例えば、図書館に行くにしても、子どもだけで行ける環境ではない地域もあります。そうした立地条件を踏まえると、図書を特色とするのであれば、学校の中に図書館機能を持たせた施設を設けるなどの工夫も必要ではないかと思っています。</p> <p>また、市では巡回による図書の貸出や回収を行っていただいておりますが、本が身近になる取組は進んでいると感じています。貸出冊数だけが全てではありませんが、本に触れる機会が増えていることは事実だと思います。</p> <p>図書を特色として位置付けること自体はよいと思いますが、それを前面に出していくのであれば、もう一步、二歩踏み込んだ取組が必要ではないでしょうか。</p> <p>例えば、空き教室を活用した図書スペースを整備することや、特色ある図書環境を学校の中に整えることなどが考えられると思います。</p> <p>さらに、そうした施設を地域にも開放し、土日には利用できるような</p>

<p>C委員</p>	<p>ど、地域の方にも活用していただける仕組みがあれば、白岡らしい特色として打ち出せるのではないかと思います。地域の方々も本に親しむことができれば喜ばれるでしょうし、学校と地域が一体となって図書に取り組んでいるということも伝わると思います。</p> <p>自分の学校に置き換えながら考えてみたのですが、もしそうした取組を前向きに検討していただけるのであれば、白岡市の特色として十分成り立つのではないかと思います。</p> <p>少し付け加えさせていただきたいのですが、学校を再編するというところで、例えば、「今まで1億円かかっていたものが9,000万円で抑えることができ、その分予算が浮いた」というような場合は、その浮いた予算を教育分野に充てていただきたく、これは行政の方に強くお願いしたいところです。</p> <p>今後は教育にかける予算を増やしていくべきだと私は考えています。効率化を図ることは大切だと思いますが、それが単純に教育予算の削減につながるような考え方にはしてほしくありません。</p> <p>また、「コスト」という言葉についても、教育の場面ではあまり使わないでいただきたいと思っています。その点は要望としてお伝えいたします。</p> <p>もう1点ですが、先ほど図書についてのお話がありましたが、図書を特色として考えていくことは、とてもよいことだと思います。</p> <p>ただ、それに加えて、以前保護者アンケートを実施した際に、「学校に何を望みますか」という問いに対しては、毎回、「安全・安心」、それから「学力向上」といった項目が上位に挙がっていたかと思います。</p> <p>そう考えると、今回の将来ビジョンの中では、「学力向上」という視点があまり前面に出ていないように感じています。</p> <p>例えばですが、「白岡市は埼玉県内でもトップレベルの学力向上を目指す」といった方向性を打ち出すことも、一つの考え方ではないかと思います。</p> <p>そうした目標を掲げることで、子育て世代の方々に「子どもを育てるなら白岡市がよい」と思ってもらえる可能性もあると思いますし、結果として若い世代の定住や人口増加にもつながるのではないかと思います。</p> <p>「学力向上」を目指すという視点や、それに関連する表現についても、今後</p>
------------	---

<p>濱本会長</p>	<p>の検討の中で盛り込んでいただけるとありがたいと思います。</p> <p>学力の向上については、この資料の一番上にあります「方向性を選択した主な理由」の中で、「教育の質の向上」という形で整理されているのだと思います。</p> <p>ただ、教育の質の向上という表現だけでは少し抽象的であり、「学力向上」という視点をもう少し具体的に打ち出した方がよいのではないかと、というご意見だったかと思います。</p>
<p>M委員</p>	<p>私は、「学力向上」という考え方は、すでにこの将来ビジョンや方向性の中に織り込まれていると受け取っています。</p> <p>また、質問されていた「なぜ小中一貫教育が不登校の防止につながるのか」という点についても、まさにその部分に関わってくるのではないかと考えています。</p> <p>やはり、1人の子どもに対して、より手厚く関わることができる体制をつくれるということが大きいと思います。</p> <p>小規模な学校では、どうしても配置できる教員数に限りがありますが、ある程度統合することで、多くの教員が1人の児童生徒に関わることができるようになります。</p> <p>また、小中一貫教育を進めることで、小学校高学年の段階から教科担任制を取り入れやすくなり、より専門性の高い教員が授業を担当できるようになります。そうなれば、算数や理科などについても、子どもたちの理解が深まることが期待できます。</p> <p>私は、それ自体が「学力向上」につながる取組だと考えています。</p> <p>その意味では、「学力向上」という考え方はすでに含まれていると思いますが、言葉としてももう少し前面に出した方が、市民の皆さんにも分かりやすく伝わるのかもしれないとも感じました。</p> <p>今回目指している方向性の中には、「学力向上」という視点は当然含まれていると思いますし、それに伴う成果も期待できると考えています。</p> <p>ただ一方で、私自身の立場から申し上げますと、そうした取組によって生じる</p>

	<p>課題や影響にも目を向ける必要があると思っています。</p> <p>学習についていくことが難しい子どもたちや、支援を必要とする子どもたちが取り残されることのないようにすることも大切です。</p> <p>「学力向上」を目指すことと同時に、セーフティネットをしっかりと整え、「誰一人取り残さない」という視点も、学校教育の中では同時に持っていかねばならないと考えています。</p>
濱本会長	<p>大切なのは、「誰一人取り残さない」という視点なのだと思います。</p> <p>その上で、「学力向上」や確かな学力を身に付けさせるということも重要な目標になると思います。</p> <p>例えば、「誰一人取り残さない教育を推進し、確かな学力の育成を目指す」といった文言を入れることで、その考え方がより分かりやすく伝わるのではないかという気がします。</p>
C委員	<p>そのような言葉に整理されていくのだろうなという感じはしています。</p>
濱本会長	<p>それでは、そのあたりの内容については事務局で整理していただき、「学力向上」という視点が分かる形で盛り込んでいただければと思います。</p>
事務局	<p>「学力向上」という視点を踏まえながら、内容についても適切に反映できるよう検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。他にご意見はありますか。</p>
G委員	<p>先ほどの話を聞きながら、以前の取組を思い出していました。</p> <p>そのときは、まず学校運営協議会のメンバーについて考えました。メンバーには、幼保小の連携の観点から、幼稚園の園長先生に委員として入っていただきました。また、不登校の課題について、小学校と中学校が共通の課題として取り組むためには、専門的な立場の方にも入っていただいた方がよいだろうということで、お医者さんにも委員として参加していただきました。</p>

そうした取組を振り返ると、一貫教育のよさの1つは、不登校対策などについて、幼稚園・小学校・中学校などが同じ意識を持ちながら取り組めることではないかと思います。

また、地域コミュニティの視点で考えると、今日の議題とは少し違うかもしれませんが、学校運営協議会は小中一貫教育を支える大切な仕組みの1つだと思っています。「この学校区の課題は何か」を学校運営協議会の委員、小学校、中学校、地域が一緒になって共有し、解決に向けて取り組んでいくことが大切だと思っています。

例えば、当時は「学力向上」が課題として挙がりました。

委員の皆さんからさまざまなアイデアをいただき、本を読む習慣を付けるためにしおりを作ったり、読書活動を推進したりしました。さらに、漢字検定に取り組んだり、その後は数学検定にも取り組んだり、中学校も含めて、保護者の皆さんにも参加していただきながら進めていきました。

「学力向上」の一部ではありますが、そうした取組を地域と一緒に進められたことは非常によかったと思っています。

ただ一方で、私は小中連携、小中一貫校、義務教育学校というものは、それぞれ段階があると考えています。

学校運営協議会は、校長が代わっても学校の目指す方向が変わらないようにするための仕組みとしてスタートしたものだと思っています。校長は2年、3年で異動することがありますが、その学校が大切にしてきたことを地域とともに引き継いでいくために、学校運営協議会があるのだと思います。

その中で小中一貫校を進める場合、小学校と中学校で校長が別々にいるケースがあり、仮に3校体制になれば3人の校長がいることとなります。

そうすると、校長同士が同じ方向を向いていることや、教育に対する考え方を共有していることが非常に重要になります。

私自身、一生懸命取り組んでいても、隣の学校との温度差があると、なかなかうまく進まないということも感じてきました。そのため、小中一貫校は、一方だけが盛り上がりつつも難しい面があると思っています。

先日、つくば市のお話を聞いた際にも感じたのですが、あれだけ大きな取組を進められているのは、校長先生方をはじめ、関係者全員が同じ方向を向いて

	<p>いるからなのだろうと感じました。その話を聞いて感動すると同時に、自分自身の経験を振り返ると、白岡市でも校長会や教職員同士の連携をしっかりと進めていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>小中一貫校を否定するつもりは全くありませんが、そうした課題や難しさもあるのではないかと考えています。</p> <p>一方で、義務教育学校であれば校長は1人です。</p> <p>また、白岡市には力のある学校運営協議会がありますので、地域と一緒に学校づくりを進めていくという意味では、義務教育学校の方が進めやすい部分もあるのではないかと感じています。</p> <p>もちろん、教育委員会や市長部局を含めて今後検討していくことになると思いますが、私自身はこれまでの経験を通して、そのようなことを感じています。</p> <p>私は多くの方々に支えていただきながら取り組むことができましたので、その経験も踏まえて意見を述べさせていただきました。</p>
濱本会長	<p>小中一貫教育を進めていこうという議論をしていますが、その土台にはコミュニティ・スクール、つまり学校運営協議会があり、地域との連携があっちはじめてよい形になるというご意見だったと思います。</p> <p>また、その中で幼稚園の園長先生やお医者さんなど、さまざまな立場の方に学校運営協議会へ入っていただき、地域全体で子どもたちを支えていくことが大切だというお話だったと思います。</p> <p>単に小中一貫教育を進めるだけではなく、地域とともに学校を支える仕組みを充実させながら進めていくことが重要であり、そのような視点も配慮事項として盛り込んだ方がよいのではないかとご意見だったのではないかと思います。</p>
M委員	<p>今日の資料をみていて、先ほどのお話に近い事例が載っているのかなと思いました。資料の6ページ、つくば市の事例です。</p> <p>左上をみると、私たちが視察に行ったつくば市でも、非常に丁寧に進めていることが分かります。</p> <p>つくば市ではかなり前から施設分離型の小中一貫教育を導入し、中学校区ご</p>

とに学園名を設定するとともに、同一中学校区の小中学校による小中一貫教育推進委員会を設置しています。

これは、学区ごとに地域の皆さんや学校関係者が集まり、「どのような学校区にしたいのか」を考える組織を立ち上げているということだと思います。幼稚園や保育園なども含めながら、地域全体で方向性を考えているのだと思います。

資料では、まず施設分離型でスタートし、その後8年ほどかけて義務教育学校が誕生しています。さらにその後も7年ほどかけて義務教育学校が増えたり、併設型が整備されたりしています。つまり、つくば市でも15年近い時間をかけて段階的に進めてきたということになります。

その出発点には、各学校の検討組織があったということですので、これは白岡市にとっても1つの参考になるのではないかと思います。

今後、各学校区に「どのような学校を目指すのか」を考える組織を立ち上げ、それぞれの地域にふさわしい形を検討していくという進め方もあるのではないかと思います。

また、校長先生のリーダーシップについても、私は非常に大切だと思っています。

公立学校の先生方は本当に大変だと思いますが、私立の立場からみると、校長先生が変わっても一定の教育方針や学校の方向性が保たれていることに、逆に驚きや敬意を感じています。それだけ自治体としての教育理念や共通の考え方がしっかり共有されているのだと思います。

ただ、そうは言っても、立ち上げの段階では強いリーダーシップを持つ方の存在は必要だと思います。「この学校区ではこういう学園をつくる」という方向性を示しながら進めていく人が必要なのではないかと思います。

つくば市を視察した際にも、「春日学園はあなたがつくるんですよ」と言われて身が引き締まった、というお話を伺いました。

つくば市でさえも長い時間をかけながら丁寧に検討し、段階的に進めてきたということは、白岡市にとっても大いに参考になるのではないかと思います。

濱本会長

今のお話を伺っていると、新しい学校制度や新たな学校づくりを進める際

<p>B委員</p>	<p>には、地域や学校関係者が参加する準備委員会のような組織を立ち上げながら進めていくことが大切だというご意見だったと思います。</p> <p>また、仮に新たな準備委員会を設置することが難しい場合には、既に設置されている学校運営協議会を中心として、地域の声を反映しながら進めていくことも1つの方法ではないか、というご意見だったと思います。</p> <p>そうした視点についても、配慮事項の中に盛り込んでいくという形で整理してもよいのではないかと思います。</p> <p>今、いろいろお話をいただきましたが、学校運営協議会の重要性については、実際に関わっている立場からよく理解しています。</p> <p>ただ一方で、学校運営協議会という仕組み自体が、まだ十分に浸透しているとは言えないのかなとも感じています。</p> <p>学校運営協議会は、地域の限られた方々が代表として参加し、学校側も校長先生や教頭先生、主幹教諭の先生方などがメンバーとなって議論を行っています。そのため、学校側は協議した内容を教職員の皆さんにしっかり共有していただく必要がありますし、私たち地域の委員も、それぞれの地域へ内容を伝えていく役割があると思っています。</p> <p>ただ現状では、まだ限られたコミュニティの中で、「これがいいのではないか」「あれがいいのではないか」と話し合っている段階の部分もあると感じています。</p> <p>また、先ほどお話にあったように、校長先生は2年、3年で異動されます。地域の人間は変わりませんが、2年、3年かけてようやくまとってきた話が、校長先生が代わることで一度立ち止まるような場面もあります。</p> <p>もちろん、その後さらに発展していけばよいのですが、現状ではそうしたことも起きていると感じています。</p> <p>私たちの校区の学校運営協議会は、今期で5年目に入ります。その中で、そうしたことを何度か経験してきました。今後は地域と学校が一緒になって学校運営を考えていくことが、ますます重要になってくると思っています。</p> <p>適正規模・適正配置の議論については、ハード面だけでなく、ソフト面も非常に重要だと思っています。どれだけ立派な施設を整備しても、教育の中身が</p>
------------	--

	<p>伴わなければ魅力ある学校にはならないと思います。地域力、保護者力、そして先生方の力、そうしたものが全て合わさることで、教育の質の向上につながるのではないかと感じています。</p> <p>それぞれ立場や考え方は違って、目指す方向は同じだと思います。</p> <p>だからこそ、コミュニケーションという言葉で片付けてしまうのは簡単ですが、やはり地域と学校がしっかり話し合いながら学校づくりを進めていくことが大切なのではないかと思っています。</p> <p>この会議としては、そこまで踏み込む段階ではないのかもしれませんが、今後、学校区の方向性が決まった後の学校づくりにも関わらせていただけるのであれば、ぜひ参加させていただきたいと思っています。</p> <p>また、つくば市の春日学園を視察した際には、多くの委員が同じような感動を持ったと思います。さらに、先日のシンポジウムでつくば市の副教育長がお話しされたつくば市のこれまでの歩みや経緯についても、非常に参考になる内容でした。</p> <p>白岡市においても、つくば市の取組を参考にしながら、段階を踏んで丁寧に学校づくりを進めていくことができればよいのではないかとと思っています。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>やはり、先生方、地域の皆さん、保護者の皆さんが共通理解を持ちながら進めていくことが大切であり、そのためにも地域住民や保護者に対して丁寧な説明を行ってほしい、ということだと思います。</p> <p>単に説明するだけではなく、しっかりと理解を深めながら進めていけるような取組が必要だというご意見として受け止めました。</p> <p>そのあたりは、もう少し「共通理解を図りながら進める」といった表現で整理し、今後につなげていければと思います。</p>
<p>J委員</p>	<p>保護者の方から「あっちの学校は女子同士のトラブルがあるらしい」「あっちの学校は男子が元気らしい」といった話を伺うことがあります。</p> <p>いろいろな噂を聞いて不安になる方もいるようですが、実際に中学校へ進学してみると、仲良くやっていますし、時にはけんかもありますが、それはどこでも同じだと思います。</p>

また、意外と中学校にどんな部活動があるのか知らない保護者や子どもも多いと感じています。ホームページをみれば分かるのかもしれませんが、実際にはそこまでみていない方も多いようです。

そう考えると、例えば小学校中学年くらいから、中学校のお兄さん、お姉さんがどんな部活動をやっているのか見学してみたり、交流したりしながら育てていくことは、とてもよいことなのではないかと思います。

また、私は幼稚園を選ぶ際に、あえて白岡市内ではなく市外の幼稚園へ通わせました。12年間同じ地域でつながっていくことの良さもあると思いますが、一方で視野が狭くなるのではないかという思いもあり、別の地域を選びました。

ただ、今日のお話を聞いていて、幼稚園や保育園と小学校がしっかり連携しているということをはじめて知りました。そうしたことを事前に知っていたら、もしかしたら違う選択をしていたかもしれません。そういった取組についてもっと発信していただけるとよいのではないかと思います。

それから、地域住民等への丁寧な説明というところについてです。住民説明会だけではなく、これから白岡市へ転入してくる方や、これから子育てを始める方にも、将来的に学校がどうなっていくのかという情報がしっかり伝わるような工夫が必要ではないかと思います。

濱本会長

今のお話を伺っていて感じたのは、やはり情報が十分に伝わっていないケースがあるのではないかということです。

学校側としては説明しているつもりでも、実際には十分に伝わってなかったり、情報を受け取る機会がなかったりすることもあるのだと思います。

ですので、子どもたち、教職員、保護者、地域の皆さんが同じ情報を共有しながら、一緒に白岡市の教育を考え、学校づくりを進めていくことが大切なのだと思います。

また、現在学校に通っている家庭だけでなく、これから入学する家庭や転入してくる家庭にも、学校の状況や将来の方向性が分かるような情報発信が必要だというご意見だったと思います。

そうした意味でも、「地域住民等に対して丁寧な説明を行う」という表現に

<p>L 委員</p>	<p>加えて、情報共有や共通理解を図ることの重要性が伝わるような文言を加えていただくとよいのではないかと思います。</p> <p>事務局におかれましては、そのような趣旨が伝わる形で整理をお願いできればと思います。</p> <p>この内容が「20年後に向けての配慮事項」という整理に当てはまるかどうか分からないのですが、感じていることをお話しさせていただきます。</p> <p>まず1つは、資料5ページにある小中一貫教育の形態についてです。</p> <p>基本的には、9年間を見通した小中一貫教育を進めていくという方向性は皆さんの中で共有されていると思っています。ただ、その形をどうするかについては、まだ今後の検討事項だと理解しています。</p> <p>その中で私が少し気になっているのは、義務教育学校についてです。</p> <p>委員の皆さんからも評価するご意見が多く出ていますし、私は視察に参加していないので実際の状況は分かりませんが、少し気になっている点があります。</p> <p>私の理解が正しいか分からないのですが、義務教育学校の教員になるには、小学校と中学校の両方の免許が必要だという話を聞いたことがあります。現在は国の特例措置などで、どちらか一方の免許でも対応できる仕組みがあるとも聞いていますが、将来的に制度が変わった場合、義務教育学校の運営が難しくなる可能性はないのだろうかという懸念があります。</p> <p>ですので、将来的なゴールとして義務教育学校を目指すことはよいと思うのですが、それだけに限定せず、仮に併設型や施設分離型なども選択肢として持てるような考え方を残しておくことも必要ではないかと思っています。</p> <p>つくば市でさえ15年ほどかけて取組を段階的に進めています。</p> <p>白岡市も20年という長い期間を見据えているのであれば、柔軟な選択肢を残しておくことが大切ではないかと思っています。</p> <p>もう1つは、先生方についてです。義務教育学校になった場合、先生方の異動や配置、人事の面で負担が大きくなったり、不都合が生じたりしないのだろうかということが少し気になっています。</p> <p>私たちはどうしても子どもや保護者、地域の視点で考えがちですが、実際に</p>
-------------	---

学校を運営していくのは先生方です。ソフト面を充実させるためには、先生方が働きやすく、力を発揮しやすい環境であることも大切だと思っています。子どもたちによいこと、地域によいことだけでなく、先生方にとってもよい仕組みであることが必要で、いわば「三方よし」の形を目指すべきではないかと思っています。

その意味で、義務教育学校を否定するわけではありませんが、本当に先生方にとっても無理のない制度なのかという点は、今後しっかり確認していただきたいと思っています。

もう1つ別の観点です。これまでの議論では、白岡市の人口減少や児童生徒数の減少という話を中心になっています。もちろん、推計上は減少していくことは事実なのですが、そのことを少しネガティブに捉え過ぎているのではないかと感じています。今回の適正規模・適正配置や小中一貫教育の議論は、見方を変えれば白岡市の魅力づくりにもつながる話だと思います。例えば、「白岡市は教育に力を入れている」「こうした特色ある教育を進めている」ということを積極的に発信していけば、それを理由に白岡市を選ぶ子育て世代が出てくるかもしれません。

「学力向上」でもよいですし、それ以外の特色でもよいと思います。白岡市ならではの教育の魅力をつくり、それを市内外へしっかり発信していくことが大切ではないでしょうか。「白岡市は将来を見据えてこういう教育を目指している」というメッセージを発信していくことが重要だと思います。

これは教育委員会だけではなく、市全体で取り組むべき話かもしれませんが、長期的なまちづくりの中で教育を大きな強みにしていくという視点も必要ではないかと思っています。

人口減少への対応を単なる守りの議論にするのではなく、教育を通じて白岡市の魅力を高めるという攻めの視点も持ちながら進めていただければと思います。

濱本会長

小中一貫教育については、教員免許の関係もありますので、そのあたりは十分に整理しながら進めていく必要があります。

特例制度もありますが、基本的には小学校には小学校の免許、中学校には中

学校の免許がありますので、両方の免許を持っている先生であれば両方に関わることができるし、特例で対応できる部分もあります。ただ、その運用についてはケースごとに考えていくことになります。

一方で、先生方にとっては、小学校と中学校が分かれていると、お互いの教育の実態がみえにくい部分があります。

ですが、小中一貫教育になると、「小学校ではこういう指導をしているんだ」「中学校ではこういう学び方になるんだ」ということをお互いに理解できる強みがあると思います。その学びというのは非常に大きいものがあります。中学校の先生にとっても学びになりますし、小学校の先生にとっても学びになります。

そして、それが結果として子どもの理解につながっていくのだと思います。子どもをさまざまな視点からみることができるようになるという点は、小中一貫教育の大きなメリットの1つだと思っています。

また、「白岡の教育を受けてよかった」「白岡に住みたいと思えるまちにしたい」というご意見も、とても大切な視点だと思います。これは資料3ページにあります「市の目指す子ども像」や「学校のあり方」に関わる部分だと思います。単に学校を再編するという話ではなく、白岡市としてどのような子どもを育てたいのか、どのような教育を目指すのかということをもっとしっかり打ち出していく必要があるのではないのでしょうか。

そして、その理念や方向性を具現化する一つ的手段として、小中一貫教育や学校再編があるということなのだと思います。

「白岡の教育を受けてよかった」「子育てをするなら白岡がいい」「これからも白岡に住み続けたい」、そう思ってもらえるような教育を目指していく、そうした視点が伝わるような整理をしていただければと思います。

事務局におかれましては、そのあたりも踏まえてご検討いただければと思います。

K委員

先ほど、つくば市では15年ほどかけて準備を進めてきたというお話がありました。その中で、地域ごとに検討する組織や準備委員会のようなものが設置されていたというお話もありましたが、白岡市でも今後3つの学校区を軸に考

	<p>えていくのであれば、それぞれの学校区ごとに同じような委員会があってもよいのではないかと感じました。</p> <p>特に、菁莪地区と南地区については、小学校と中学校が複数ありますので、今後どのような形がその地域にふさわしいのかを、地域の皆さんと一緒に考えていくことが必要なのではないかと思えます。</p> <p>例えば、併設型がよいのか、あるいは別の形がよいのかといったことも含めて、それぞれの学校区で議論していく場があってもよいのではないのでしょうか。将来的な学校づくりを考える上では、そうした地域ごとの検討組織のようなものも必要になるのではないかと感じています。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>小中一貫教育にはさまざまな形態がありますので、どの形を選択するにしても、十分な準備と丁寧な議論が必要になるということだと思います。</p> <p>準備委員会、あるいはそれに代わるような組織を設けながら、地域や保護者、学校関係者の意見を十分に反映し、丁寧に進めていただきたいというご意見だったと思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>本日の議論の中で、これだけ多くの意見が出ている中で、最終的にどのように整理していくのか、工夫が必要であると感じています。</p> <p>少し根本的な話になってしまうのですが、資料1ページでは、20年後の姿としてパターン2が示されています。</p> <p>以前に30年後、さらには40年後の学校がどうなるかの話をしましたが、私は本当に20年後にパターン2の形になっているのだろうか、という疑問を持っています。</p> <p>これまで、いろいろ議論した結果として、「最終的にはパターン2なのだろう」という話になったと思います。しかし、20年後という時点だけを見ると、私はむしろパターン4の方が現実的なのではないかと思っています。</p> <p>その理由としては、篠津小学校が約410人、白岡東小学校が約350人という状況があり、その地域を考えたときに、本当にその段階で一気に統合するのだろうかという疑問があります。</p> <p>また、篠津小学校の校舎を建て替える際にはどうするのかという話の中で、</p>

白岡東小学校はまだ活用していくという説明がありました。白岡東小学校は20年後の時点でも築50年程度で、まだ十分使用できるというお話もありました。

そうすると、そこまで含めたロードマップが見えないため、頭の中で整理ができていないというのが正直なところだと思います。

児童生徒数の推計を考えた場合、2045年時点ではパターン4の方が現実的で、その先の30年後、40年後に最終的にパターン2へ向かうという流れの方が自然ではないかと感じています。

パターン2を前提とした場合、資料5ページにある小中一貫教育の形態の整理についても、少し整合性が気になります。

小学校3校、中学校3校を目指すのであれば、案3の形は成立しないのではないのでしょうか。案3だと小学校の数が増えることになりますので、方向性と合わなくなってしまいます。そうすると、パターン2を前提とするのであれば、選択肢としては案1、案2、案4になるのではないかと思います。

また、いくつか出たご意見についても感じたことがあります。

まず、「なぜ公立学校は校長が代わっても一貫性を保てるのか」というお話がありました。私は、公立学校は目指すものが明確だからだと思っています。公教育として目指す方向があり、知・徳・体のバランスを取りながら教育を進めています。

一方で、私立学校は特色を出さなければ学校経営が成り立ちませんので、教育の中のどこか特化したものを強く打ち出しているのだと思います。その違いがあるからこそ、公立学校は校長や教員が代わっても一定の教育水準や方向性を維持できるのではないかと考えています。

また、「学校運営協議会と小中連携、小中一貫教育」のお話がありましたが、私は小中一貫教育の本質は、カリキュラムの一貫性や柔軟性を持たせることにあると思っています。「学力向上」もその中に含まれると思います。

学校運営協議会で漢字検定や数学検定を行ったという話は、よい取組だと思います。大切なのは、学校の先生方の授業力や指導力を高めていくことだと思います。授業の質が向上することで、子どもたちの学びが深まり、結果として「学力向上」につながっていくのだと思います。

	<p>今の教育は、先生が一方向的に教えるだけではありません。子どもたちが主体的に学び、対話しながら学ぶ授業へと変わってきています。そうした授業改善を進めることこそが、「学力向上」につながる大切な要素ではないかと思います。</p> <p>学校運営協議会の取組と小中一貫教育の本質的な議論は、少し分けて整理した方がよいのではないかと感じました。</p> <p>将来を見据えた中で、私たちは現時点ではパターン2の方向性が望ましいということで整理をしてきました。</p> <p>ただ、今、D委員からもお話がありましたように、今後の社会情勢や人口動向、あるいはまちづくりの状況によっては、必ずしもそのとおりに進むとは限りません。場合によってはパターン4のような形が現実的になる可能性もあると思います。</p> <p>ですので、この方向性を決めたから終わりということではなく、今後の状況変化をしっかりみながら、その時々で必要な検討を行っていくことが大切だと思います。必要であれば、その段階で改めて審議会を立ち上げるなどして、議論を深めていただければと思います。</p> <p>それが20年後になるのか、あるいはもっと早い段階になるのかは分かりませんが、柔軟に対応していくことが重要だというご意見として受け止めさせていただきたいと思います。</p> <p>また、小中一貫教育や学校運営協議会についても、それぞれの役割や目的を整理しながら進めていくことが必要だというご意見だったと思います。</p>
H委員	<p>本日はいろいろなお話を聞かせていただきました。</p> <p>皆さんのお話を聞いていて、これまで積み重ねてこられた議論や経過があったのご発言なのだということを強く感じました。</p> <p>その中で感じたのは、やはり白岡市の特色というものが大切になってくるのではないかということです。先ほどから図書という話題が出ていましたが、私自身もそれはとてもよい視点だなと思いながら聞いていました。</p> <p>また、「図書とは何か」というお話もありましたが、本校には文芸部があり、</p>

生徒たちは小説を書いたり創作活動をしたりしています。そういった活動も広い意味では図書や読書文化につながるものだと思いますし、そのような部分も含めて特色として考えていくことができるのではないかと思います。

白岡市にも文章を書いたり創作活動をしたりしている方がおられると思いますので、そうした地域の力を生かしながら学校というコミュニティがつくられていくと、とてもよいのではないかと思います。

もう1つ印象に残ったのは、公立学校がなぜ一定の方向性を保ちながら教育を続けていけるのかというお話です。それを聞きながら思ったのは、やはり学校教育目標の存在が大きいのではないかと思います。

本校で言えば、学校教育目標に「自立」という言葉があります。この「自立」という考え方が、生徒にも先生方にも浸透していて、1つの伝統のようになっています。教育活動全体がその目標に向かって組み立てられており、子どもたちが主体的に活動する文化もそこから生まれているように感じています。

そう考えると、今回の学校の在り方についても、市としてどのような学校を目指すのか、どのような子どもを育てたいのかという理念や方向性が非常に大切なのではないかと思います。白岡市全体としても、「これからの白岡の学校はこういう学校を目指していく」ということが、もっと分かりやすく示されるとよいのではないのでしょうか。

そして、その特色や理念が市民の皆さんに伝わるだけでなく、市外や県外の方々にも伝わるような形になれば、先ほどお話に出ていたつくば市のように、教育を通じた魅力づくりにもつながっていくのではないかと思います。

そのようなことを感じながら本日の議論を聞かせていただきました。

濱本会長

本日はさまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。

配慮事項についても、多くの貴重なご提案をいただきました。

例えば、幼稚園・保育園と小学校との連携、いわゆる幼保小連携についての視点や、図書を白岡市の特色として位置付けるのであれば、その内容や活用方法をもう少し具体的に示していくべきではないかというご意見がありました。

また、「学力向上」についても、単に言葉として掲げるだけでなく、目指す姿が分かるような形で整理した方がよいのではないかというご意見もいただ

	<p>きました。</p> <p>さらに、地域や保護者、学校が共通理解を図りながら進めていくために、学校運営協議会を積極的に活用していくことの重要性についてもご意見をいただきました。</p> <p>加えて、小中一貫教育を進める際には、準備委員会などの検討組織を設置し、地域や学校関係者が十分に議論しながら進めていくべきではないかというご意見もありました。</p> <p>本来、この審議会は適正規模・適正配置の方向性を整理することが主な役割ではありますが、委員の皆さんからは、その先の学校づくりを進める上で大切にしてほしい視点や配慮事項について、多くのご意見をいただいたと思っています。</p> <p>事務局におかれましては、そうしたご意見をできる限り反映していただき、次回は答申案として整理したものをご提示いただければと思います。</p> <p>そして、次回はその答申案をもとに、委員の皆さんと最終的な確認をしていきたいと思っています。</p> <p>そのような進め方でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	(異議なし)
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、そのような形で進めさせていただきます。事務局におかれましては、次回に向けた準備をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここで進行を事務局へお返しします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>～事務局から、「次回審議会の日時について」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～</p>
事務局	委員の皆様から何かございますか。

委員一同	意見、質問等なし
事務局	<p>5 閉 会</p> <p>それでは、本日は長時間にわたり熱心なご議論をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>皆さまからいただいた貴重なご意見を踏まえ、次回は答申案についてご審議いただく予定となります。引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>以上をもちまして、第8回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>